

令和8年度 滋賀県立農業大学校重点目標等と評価項目

[教育方針]	本県の次代の農業経営を担い、地域社会における農業の振興等に指導的役割を果たす人材を育成する。
[重点目標]	<p>I：養成科の定員の確保（定員充足率100%）</p> <p>II：養成科における実践教育の充実（各講義のシラバスに沿った教育の実施と改善の仕組みの構築）</p> <p>III：養成科における就農率の向上（早期からのキャリア教育の充実による60%以上の就農）</p> <p>IV：就農科の定員の確保（定員充足率100%）</p> <p>V：就農科における円滑な就農準備の実施（全員が就農計画を立てて発表できる）</p>

現状	評価項目	具体的方策および評価指標
重点目標Ⅰ：定員の確保（定員充足率100%）		
[実績] 1 定員充足率（定員30名） 79%（R4～8年度平均） 2 農業高校出身者比率 55%（R4～8年度平均） 3 推薦入試入学者率 53%（過去5年平均） 4 オープンキャンパス参加者数 52名（13名/回） 5 インスタ発信回数 65回（R7年度）	農業高校との連携	・みらいの農業振興課と連携し、農業高校との連携の検討を行う。 （今後の連携教育のあり方案ができる）
	農業大学校のPR	・PRツールの見直しと近隣府県高等学校等へのPRの実施 ・R9年度のPRツールをR9年1月までに作成する ・新たなPR機会の探索する（1方法以上） ・SNSの情報発信強化する（発信回数75回以上）
	オープンキャンパスの開催	・オープンキャンパスを年3回実施（6月,9月,3月）する （延べ45名以上（15名/回以上）の参加者を確保する）
	入試方法の見直し	・推薦入試や一般入試の方法等の見直しを検討する （R10年度案が確定する）
重点目標Ⅱ：実践教育の充実（各講義のシラバスに沿った教育の実施と改善の仕組みの構築）		
[実績] 1 講義・実習 授業に満足しているか 1年生6.3点/10点 2年生8.0点/10点 ※外部評価を10点満点換算 （A10、B6.7、C3.3、D0点） 2資格取得 大型特殊 12名合格 けん引 11名合格 等	講義内容の充実	・学生受講アンケートの実施や講師アンケートの実施による改善 （全講座で実施する） ・学生の授業満足度を把握する（R7年度以上の評価に高める）
	実習による技術力の向上	・実習のあり方について農業高校や他農業大学校等の方法を研究する （1か所視察）
	資格取得の強化	・大型特殊免許取得率（7割以上の学生等が取得する） ・自主的な資格取得の場の提供と推進を図る（延べ10人以上が取り組む）
	学生の主体性の確保等	・自主活動推進時間を設けて、その時間の有効活動を指導する（月1回以上） ・学生の出席情報等の早期把握体制と進捗管理体制の整備をする
重点目標Ⅲ：就農率の向上（早期からのキャリア教育の充実による60%以上の就農）		
[実績] 1 就農率 70% 2 10/31時点内定率 27%	キャリアを考える場の提供	・キャリアデザイン等において農業者等の話の機会を増やす（3回以上） ・10月末時点で就職等の内定率が30%以上となるようにする
	学生意向の早期把握 就職等進路指導の充実	・就職活動のオンラインの仕組みの活用 ・定期的な会議での進捗把握と教員の共有を図る（3回以上） ・就農率60%以上
重点目標Ⅳ：就農科の定員確保（定員充足率100%）		
[実績] 1 定員充足率 R7:33%、R8:60%(予定)	農産普及課や担い手育成基金との連携	・連携の場の設定を行う（3回以上）
	就農科のPR	・就農科専用PRツールの作成と活用 ・R9年度の募集ツールの早期作成を図る（1月までにできる）
	就農ブレ講座の充実	・参加者 10名以上を確保する
	就農科のあり方の検討	・R9以降のあり方案の確定（令和9年度1月までに案ができる） ・R10年度以降の入試方法の見直し案の確定
重点目標Ⅴ：就農科における円滑な就農準備の実施		
[実績] 1 就農計画策定率 1月時点100%	現場農業法人等での研修の円滑な実施	・全研修先との連携（月1回以上）
	各専攻ごとの研修体系等の確立	・全科目のシラバス案が作成できる
	就農計画の具体化	・就農計画の相談の場を設置する（3回以上）